

上級レベルの発話抽出と判定における注意点

齊藤眞理子
文化女子大学

要旨

ACTFL-OPI の判定は ACTFL 言語運用能力基準に基づいて行われるが、その基準はすべての言語に援用できるものとなっているため、実際に得られた被験者の発話と基準に述べられていることを合わせていく **renorming** という作業が不可欠となる。本稿は日本語 OPI 研究会で長年続けている判定会を通して感じたことを中心に、上級レベルにおける発話抽出と判定における注意点について事例を挙げながら述べている。

本稿は 2009 年 8 月にソウルで行われた OPI 国際シンポジウムのトレーナーセッションにおける発表を基に加筆したものである。

【キーワード】 ACTFL-OPI、renorming、上級レベル、抽出法、判定

1. はじめに

日本語 OPI 研究会では、定例会の際に会員が行ったインタビューテープを持ち寄り、判定会を行っている。ACTFL-OPI の判定は ACTFL - OPI 基準に基づいて行われることは周知のことではあるが、その記述があらゆる言語に援用すべく抽象的であり、そこに記述されている内容が日本語ではどういうことかについての **renorming** を常に心がける必要がある。

今回は、今まで行われた判定会、OPI の日^①、ACTFL-OPI ワークショップにおける OPI インタビューから特に上級レベルを取り上げ、その発話抽出と判定における注意点について例を挙げながら述べる。

日本語 OPI 研究会における判定会では、①テープを聞いたあと、判定用紙に判定したレベルとその根拠を書く、②グループに分かれ判定の根拠などについて話し合い、グループごとに発表する、③最後にトレーナーが判定を述べ、テストの抽出の仕方についてコメントを述べる、という流れで進めている。ちなみに日本語 OPI 研究会のメンバーであるトレーナーは 2 名おり、判定については事前に連絡を取り合っている。トレーナー間で納得した見解を持つことは肝要であると考えからである。

なお、本稿は 09 年ソウルで行われた OPI 国際会議におけるトレーナーセッションで発表したものを基にしている。その際には実際のテープを聞きながらお話したが、ここでは、書き起こし資料しか示していない。本来 OPI は耳で聞いた発話に基づいて判定するものであることをお断りしておく。

2. 判定の際に陥りやすい罠

判定会を始めて初期の頃は根拠として書かれている内容と判定レベルが食い違っていることがまま見受けられた。ワークショップを受けて、かなり時間がたっているテストは、自分なりの基準を作りあげている場合があるのだ。常に ACTFL - OPI 基準に立ち返り、

基準を意識化すること、つまり、**renorming** の大切さに改めて気づく。

判定会で出てきたものの例を挙げてみると、「社会問題など、抽象的な話題についてはきちんと説明できない」ことを根拠に「中級－上」と判定しているもの、「複段落は構成されている」ことを根拠に「上級－下」と判定しているものなどがあつた。「社会問題など、抽象的な話題」というのは「超級」課題であり、それができないからといって、「中級」になるものではない。また、「複段落は構成されている」のであれば、超級の特徴が見られているということであり、「上級－下」という判定にはならないであろう。判定の際に ACTFL - OPI 基準を読み込み、それぞれのレベルで必要とされていることを把握しておくことがまず重要である。

もう一つ、気をつけなければいけないことは、「前の判定との比較をしない」ということである。自分の判定がほかの人と異なるというのはかなり不安になることで、次に判定をする際に影響されることがある。「前は少し低めの判定だったから」とか、「前は甘めの判定だったから」ということで、判定を変えることがあつてはならない。そのためには、常に自分の判断の根拠を意識化しておくことが大切である。

そして、判定を下す際には、言語運用能力基準で確認し、納得してから判定をすることが基本である。

3. 「上級－上」の発話抽出とその判定

3-1 抽出の際に犯しがちな失敗

「上級－上」レベルのインタビューに見られるテストターの失敗を挙げてみよう。①テストターの話しすぎ、②話題の偏り、③反論・聞き返しの不足、がこのレベルに見られる失敗の主なものである。異文化の経験豊富な被験者と話すのは楽しい。「上級－上」レベルともなると、どのような話題でも具体的に、わかりやすく話すことができるので、テストターも被験者の話の内容に惹かれて、つい楽しく話してしまうのだろう。また、複段落レベルの話も出てくるので、一つの話題に対する発話が長くなる。そのために気がつく時間がなくなり、話題の数が少なくなってしまうことがある。被験者のほうで得意な話題へと誘導する場合もあるので要注意である。

「上級－上」と判定するには、「上級－中」ではない理由と「超級」ではない理由を示す必要がある。「上級－中」でない理由とは、「超級タスクを維持することはできないが、パフォーマンスはしっかりとしており、半分以上超級レベルで話している」ことを示すことである。そのためには超級への突き上げが不可欠となる。

「超級」ではない理由とは「超級レベルを維持できない」ことを示すことである。つまり、「抽象的に論じることができるが、…概してさまざまな話題について具体的に論じるほうが…楽である。」ことを証明することである。そのためには、やはり超級への突き上げが必要である。

3-2 超級へのトリプルパンチ例

超級のトリプルパンチの例を見てみよう。これは出身地についての話から上級課題へと話に移り、さらに超級課題へと一連の質問が続いている部分である。

R⁽²⁾ : どうしてそこが発達したと思いますか。

E : それは、さっきも言って、古代の宋の時代から、えーと、ホク地方は戦乱で政治の中心も南の地方に移して、そして南の地方では、政治と経済の中心としてだんだん発展しています。そして、地理的にはホク地方はあまり内陸地方だから水があまり少ないですね。南の地方は海に近いで、そして揚子江もあって、湖などがいっぱいあります。それが農作物には、大変農作物の成長には、収穫にもいいところですから、だんだん米などの生産地になって、経済も発展していますね。

中級レベルの身近な出身地の話題に続いて、その町が発達した理由を尋ねている部分である。歴史的な事実についての具体的な叙述が出ている。「戦乱、内陸、発展、地理的、農作物、成長、収穫、生産地」などの語彙を使用しながら、南の地方が発達した理由を述べている。

R : 現代経済にとって無錫はどういう位置にあるんですか。

E : えーと、今は中国は改革開放で、その政策によってはまずは、南の地方がまず発展して、広州等ももっと、南の地方で、無錫はその東の中国の、東の沿岸に位置しますから、貿易などにも、貿易、…実は私のふるさとはある港町として、海の港じゃなくって、揚子江の川の港ですね。それが貿易にいいと思います。そして、主な産業は今はおもちゃなどの、おもちゃの工場などのホーセキ（えっ）服などの製造産業が、主な産業で、普通、特に、無錫の隣は蘇州です。蘇州は布などの服の生産地だから、はい。

ここでの質問は抽象的な超級課題へとスパイラルアップしている問いかけである。それに対して、「改革開放、政策、発展、貿易」などの語彙を使用しながら、抽象的なレベルで話し出しているが、途中から、自分の故郷についての具体的な事実に関する説明に移行している。

R : 将来的に無錫はどういう風に経済が発展していくと思いますか。

E : 今は無錫も、えーと、ハイテクノレッジの産業も今発展しています。日本のソニーなど、ソニー、パナソニックなどの工場も無錫に設置していますから、将来的には、多分このようなハイテクノレッジの工場がより発展していくと思います。

将来のことについての問いかけである。「将来的、発展」などを使用しながら、短く答えている。

R : なるほど、もし発展に障害となるものがあるとしたら、どういうところで問題があると思いますか。

E : ええ、今は金融危機で、なんか、タイガイの貿易も非常にショックされましたね。だ

から、たぶん産業も第一産業や第二産業などの構造を変えなければならないですね。はい、そして、環境汚染も今問題となって、より深刻になってます。んー、早く、チリ？しなければならないです。

これも仮説の質問である。第一（次）産業と第二（次）産業の構造を変えなければならないと答えているが、「タイガいの貿易」、「チリしなければならない」、など不適切な語彙が表れている。

R：無錫の政治を変えることができる立場だとしたら、どう解決していきたいですか。

E：ああ、そうですか、まずは環境問題、いろいろなエー、規則や法律などを定めて、え、環境汚染がひどい企業をトー、しめて、まずはケーサンして、(ケーサンして・・・)⁽³⁾ 影響をやめて、ええ、はい、そして注意しなければならないですね。

さらに、追い討ちをかける仮説の質問である。言いたいことはかろうじて分かるが、「ケーサンして」と、不適切な語彙が表れている。言語的挫折を起こしている。

R：そんなふうによめさせたら、発展がないじゃありませんか。

E：でも、今実は汚染がひどい企業はたぶん、えーと、んー、収める利潤があんまり高くないですね。カゼタお金も実は(ナニタ)カゼグ、カゼーダ、カゼグお金もたぶん環境汚染の、その損に比べては実は損が多い、大きい、と思います。だから、そして今揚子江も多分、昔と比べてひどく汚染されましたから、もし早く法律などを定めなければ、あの、シシソソソ(えっ)その私たちのシシソソソ？(子々孫々?)はい、子どもなどの新しいあとの人にも障害がありますから、はい、そして、貿易についても国内に向けて内需拡大をしなければならないです。(R：なるほどね。)

論理の矛盾をテストに突かれても、ここでは、持ち直して、環境汚染による損失が大きいことを述べ、人的傷害が将来にわたってあるので、そうしなければならないことを述べている。

一連の超級への突き上げとそれに対するパフォーマンスを見ると、被験者が超級とは言えないものの、たまには抽象的にも述べながら、超級課題をこなしている様子が分かる。「上級一上」のインタビューでは、このように超級への突き上げを十分に行うことを忘れてはならない。

3-3 抽出の際の注意点

ここで、「上級一上」の抽出の際の注意点をまとめると、①上級レベルのレベルチェックを行い、一貫して正確さを保ち、上級タスクをこなしていることを確認する、②超級レベルのトリプルパンチで丁寧に突き上げを行い、困難は見られるが抽象的にも話せること、維持はできないが超級課題に答える際のパフォーマンスはしっかりしていることを見る、③そして、本稿では触れていないが、ロールプレイで敬語、インフォーマルの抽出を忘れ

ないということである。

4. 「上級一中」の発話抽出とその判定

4-1 抽出の際に犯しがちな失敗

「上級一中」レベルのインタビューに見られるテストの失敗を挙げてみよう。①被験者に自由に話させすぎること、②上級レベルチェックの不足、③焦点の絞られていない曖昧な質問、がこのレベルに見られる失敗に多い。「上級一中」レベルでは、被験者の発話量が増える。超級への突き上げを早くしなければならぬと気がはやってしまい、レベルチェックを十分にせず超級レベルの課題を課してしまう例が見られる。また、被験者の発話量に驚き、焦ってしまい、焦点の絞られていない質問をしがちなのもこのレベルを相手にしているときである。

「上級一中」と判定するには「上級一下」でない理由と、「上級一上」でない理由を示す必要がある。「上級一下」でない理由とは、「かろうじて上級を維持しているレベルではない」こと、つまり言語運用能力基準にも「上級タスクを遂行している間は、非常にスムーズな話し方ができるという点が特徴的である」⁽⁴⁾とあるように、「幅広い話題において上級レベルの質と量を見せている」ことを示すということである。そのためには、上級レベルの課題を課すことが必要である。

「上級一上」でないことの理由とは、「抽象的には話せず、具体的なレベルに戻す」「超級タスクを達成するための適切な語彙・文法の正確さに欠ける」ことを示すということ、そのためには、超級への突き上げも必要となる。

4-2 超級へのトリプルパンチ例

R : 日本の大学のいい点は何ですか。

E : 私の大学は〇〇大学ですが、あの、ゼミの大学というようなあの、言い方、呼ばれました。日本でゼミのことがすごいですね。学生間のコミュニケーションとか自分の意見が、よく先生から、あるいはえーと、学生から先生にいろいろな自分の意見がよくうまく何とか、発表できます。というようなことは中国ではやっぱり、先生は前で、教えて、学生は、あの、ただ聞くことが多いです。はい。学生の間、あるいは、先生との間の交流はちょっと少ないと感じています。

日本の大学と中国の大学を比べて、日本の良い点を述べるという上級課題に答えている部分である。日本の場合と中国の場合が対比されて、それについての被験者の気持ちがしつかりと述べられている。

R : じゃあ、日本で教育を受けて何か問題点を感じましたか。

E : え、ま、ちょっとそんな言うといいかどうか分からないんですが、やっぱり、日本の大学の学生は勉強の時間は少ないだというような質問を持っています。中国の私達の場合は、大学生はやっぱり勉強が一番重要なことです。はい、一日、あの8時間くら

い、7時間くらい勉強は普通ですけど、日本人の学生たちは、やっぱり、えーと、クラブのような、サークルのような活動が多い。でも、それも、いいと思いますけど、勉強のこと、ちょっと足りないという感じです。はい。(なるほどね)

次に、日本の大学の良くない点について述べている部分である。批判をすることに対するためらいを表し、「質問を持っている」と不自然な表現は見られるものの、「それもいいと思いますけど」「ちょっと」と配慮を見せながら、気持ちを述べている。

R：どうして中国では、ゼミのような授業が発展していないと思いますか。

E：んー、やっぱり、中国の、あの、日本人の学生はえーと、高校のときから大学生のときは、みんなアルバイトをしています。はい。中国人の学生は、えーと、社会もその環境もなく、えーと、中国の、その、あの、国の状況も学生のバイトはちょっと、そんなうまくいってないという状況ですから、あの、みんなは、人のコミュニケーションという点ではちょっと足りないという感じもあります。だから、あの、先生も小さいとき、学生るとき、人とのコミュニケーションをそんな多くないんですから、やっぱり人と人のコミュニケーションは、交流はそんな重視していない、と考えています。(あ、なるほど)だから、ゼミのことは今までもそんなうまくいってない、発達していないんです。

中国の大学でゼミがあまり行われていない理由を説明している部分である。中国と日本の状況を対比しながら、なぜゼミがそれほど発達していないかについて述べている。上級レベルの課題に対して、非常にスムーズに話を続けている様子が分かる。

R：じゃ、もし大学の先生になったら、どんな形でゼミを取り入れようと思いますか。

E：まず先生自身の能力を、まず、私は教師として私、自身の能力を高めなければならぬです。そして、あの、学生に大切、親切して、学生のことがわかるようになりました。

大学の教師になったとしたら、という仮説の質問である。多少正確さが崩れている。

R：自分の能力を高めるとはどういうことですか。

E：えーと、たとえば、ゼミの経験、例えば日本はそのゼミのような仕方は上手で、だから、外国とか、そのような仕方が上手の国に行って、勉強して、そのような仕方が良いかもしれません。はい。

答えについて、さらに詳しく説明することを要求されている部分である。かなり単純な答えとなっている。

R：学生側にはどういう心構えがあったら良いと思いますか。

E：えー、学生のほうは、んー、今私、自分が今学生ですから、やっぱりサークルとかクラブの活動が多く参加して、学生たちの関係も仲良くして、そしてゼミのときは自分の意見をみんなの前で、みんな知り合いですから、みんなの前で自分の意見をはっきり発表できるかもしれません。(なるほどね)

学生側の心構えについて聞かれている部分であるが、抽象的な答えにはならず、とても具体的な事例に終始している。

上級課題に答えているときは上級レベルの質と量を見せているが、話題が抽象的なものに入ってくると、この被験者は抽象的には話せず、具体的なレベルに戻し、超級タスクを遂行するための適切な語彙・文法の正確さに欠け、「超級レベルで要求されるようなタスクを遂行したり、そのような話題を扱う場合には質的・量的ともに、または、そのどちらかにおいて一般的に言語レベルが低下するであろう」⁽⁵⁾という言語運用能力基準の「上級一中」に記されている特徴を示していることがわかる。

4-3 抽出の際の注意点

「上級一中」の話者は、上級課題をこなしている際には非常にスムーズな話し方をし、複段落で話すこともできることが大きな特徴である。しかし、超級課題に対しては、抽象的には話せず具体的なレベルに戻したり、意見述べを達成する適切な語彙・文法の正確さの欠如を露呈したりすることになる。抽出の際には、どのレベルの課題を課し、何を抽出するのかを常に意識することが大切であり、判定の際にも被験者の発話がどのレベルの質問を課せられたときに得られたものかということ意識する必要がある。

5. 「上級一下」の発話抽出とその判定

5-1 抽出の際に犯しがちな失敗

続いて、「上級一下」レベルのインタビューについて述べる。よく見られる失敗は、①超級への突き上げがほとんどない、②超級への突き上げが多すぎる、③上級のレベルチェックが不足、である。ここで、インタビューの時間が限られていることを考えると、②と③は表裏一体とも考えられる。

「上級一下」と判定するには、「中級一上」でない理由と、「上級一中」でない理由を示さなければならない。「中級一上」でない理由とは、「上級レベルの機能を果たしているとき、言語的挫折はない」こと、「上級レベルの機能を果たしているとき、文レベルではなく、一貫性、結束性のある段落を産出する」ことを示すことであり、そのためには、上級のレベルチェックをきちんとすることが必要となる。

「上級一中」でない理由とは、「上級タスクをこなしてはいるが、そのパフォーマンスは質の面でしっかりとしていない」こと、「複段落はほとんど見られない」ことを確認することが必要で、そのためには、上級のレベルチェックと超級への突き上げが必要となる。サブレベル「下」の抽出では、レベルチェックを十分にすることを忘れてはならない。

5-2 上級レベルチェックと超級へのスパイラルアップ例 1

R : バンドゥンというのはどういう町なんですか。

E : バンドゥンというのはええと、山のほうに近い町ですが、観光地としてよく知られていますので、ジャカルタのジャカルタ人もよく来ていますね。すごい食べ物が有名ですね。食べ物とか。ファッションもすごい有名です。買い物とか。

町の様子についての説明はまとまりは欠け、思いつくままに述べている感がある。長さは1段落くらいある。

R : 食べ物が有名ってどんな食べ物が有名なんですか。

E : バンドゥンというのは西ジャワのほうにありますので、その特徴の料理はスダ料理という食べ物があって、それが甘くて、何か、えー、食べ方も手で食べるし、アマイケ食べ物なんですけども。(うん) アマイケー、えーと、肉も焼いたりして甘ソースをかけたりする食べ物ですね。

町の様子に対する答えの中から、「食べ物が有名」という言葉を捉えて、さらに質問を深めている部分である。このレベルにおいて上級レベルのことを抽出するときは、一つ質問をして終わるのではなく、その話題についてさらに焦点を絞って、被験者の発話を抽出し、被験者のパフォーマンスを確認することが必要となる。このスダ料理についての説明は段落レベルで説明している。

R : 料理の作り方教えてくださいませんか。

E : テンペって知ってますか。テンペ。あの、インドネシアのナットみたいなものなんですけども、それが日本のナットと一緒にですが、あの、大豆から作って発酵して、でも納豆だとバラバラにしてあるんですよ。あの、テンペはひと塊にして、味はナットと同じ、全く一緒ですね。そのテンペを切って、あの、サートとしおと、コショウと、ナンプラと、あとインドネシアの甘いソース、ケチャップマニスっていうソースがあって、それを入れて煮込んで、えー、あの、汁がなくなるまでに煮て、その後で揚げて、すごい甘い、テンペになりますね。それがすごいおいしいです。

テンペの作り方の段落は「発酵、一塊、煮込む、揚げる」など上手に使いながら、かなりまとまりのある長い段落を構成している。

R : ファストフード好むことについてどう思いますか

E : そうですね、えーと、私はやはり若者がファストフードが好きですね。でも、あ、インドネシアではあのちょっと残念ですけども、それが、すごい人気で、あの、私の考え方はそれがインドネシア人が、まだあの、健康食品の知識がすごい足りなくて、で、私がある一つの目的、ここで勉強する一つの目的もあの、すごい健康食品について研究したいし、で、その健康な食べ物が大事にしてほしいなインドネシア人にも伝えた

と思いますね。でも、それまだ今はまだ知識が足りないですね。ファストフードのこととか、健康食品のことも、まだまだインドネシアには知られていないです。

超級話題にスパイラルアップしている部分である。答える際には自分に関連のあることにひきつけて述べている。

R : どのように知識を広めようと思いますか。

E : はい、私は、服部先生ってご存知ですか。あの服部栄養学校の服部先生、すごい有名な。私が服部先生がすごい良いと思って、あの、食事バランスとかも考えたりして、あのその食事バランスによってあの、代々みんな日本人の方々にも皆知られていて、インドネシアでは、まだそういう風な食事バランスとか、どういうふうに食事をよく取れるように一日どれくらい摂取すれば良いかで、それもまだ誰も考えていないので、帰ったら、もしできればそういうふうな仕事したいですね。考えたりしたい。

具体的な先生の名前も出てきており、これを見ると料理関係の話題は被験者にとって専門であり、十八番かもしれないことが伺われる。

5-3 上級レベルチェックと超級へのスパイラルアップ例 2

例 1 は被験者の十八番の可能性が高いものだったので、もう一つ例を示しておく。これは、別の被験者によるもので、北海道への旅行について話している部分である。

R : 旭山動物園はどうでしたか。

E : そうですね、その、ペンギンさんが外に出て、一緒に歩くは本当に、びっくりしました。はい。(そうなんですか) はい、そして、でもね、例えば、まー、そのししとか、しし、えー、ライオンとかね、えーと、本当にアフリカでまあ暮らしているように、そこで、そこで冬は寒がっているのに、本当にそこで、ハハハ、いれられますかって感じがしますね。そこで生きられますか。でも、可哀相一匹だけ。そこで、あまり動けない。(そうですか) ちょっと可哀相だと思います。

上級課題として動物園の様子について話しているところである。印象に残っている部分について思いつくままに話している様子が分かる。正確さに欠ける部分はあるものの、内容は理解できるレベルであり、長さも段落レベルとなっている。

R : 旭山動物園は自然に近い形で動物を見せていると聞きますが、他にはどうでしたか。

E : そのときはね、その動物園の方で、本当に大きな鳥で、ま、手で立てていて、説明するのは本当に、それはいいかなと思って、はい。その鳥はね、昔、えーと、彼は言ったのは、その、昔そういう鳥はいっぱいあるし、まあ、えーと、普通に見るといっぱいあるんですけど、今はほとんどいないって。はいそれはまあ、自然環境がどんどんどんどん変わって、その影響で悪くなったり、鳥が減ったりして。

文法的な誤りはあるものの、誤解を招くほどではないレベルでエピソードを話している。抽出の仕方としては、ここで、さらにこの場のことを詳しく聞きだしたほうが良かった。このレベルの被験者には上級レベルで十分に質問を重ねることが大切なのである。

R：動物園は動物を自然の中からオリにいていることについてどう思いますか。

E：オリっていうのは、仕方ないですよ、本当に。オリがないと人間が危ないですから、人間っていうのは、うーん、まあ一応動物園にとっては金を稼ぐためにそういうことするんですよ。でもね、人間、私達は、そういうことに行って、そういうところに行って、まあ、楽しかった、そういうことは悪くないと思っています。

超級レベルへとスパイラルアップした質問であるが、論点のずれた答えとなっており、また、自分の体験にひきつけた具体的な発話となっている。段落レベルで答えている。

R：動物園の役割は何だと思うか。

E：役割、まあ、それは動物たちは健康に育て、それは一番大事だと思います。

動物園の役割について聞いている超級レベルの質問であるが、動物園が動物に対して果たす役割について述べている。短い答えである。

R：社会に対する役割はどういうことだと思うか。

E：社会に対するですね、教育ですよ。大自然に教育して、子どもに教育して、ま、未来には子どもはどんな態度でそういう自然を見ることとか、まあ、暮らしてっていうことはすごく大事だと思います。はい。

再度、問われて社会に対する役割について答えているが、一般的な内容に終始している。例 1 と例 2 で示した話者はどちらも上級的话题を扱っている際に、多少正確さに問題があっても何とか段落レベルで話せているということがわかる。

5-4 抽出の際の注意点

抽出の際の注意点としては、①叙述・描写などを意識して説明をさせる。②再度説明を要求し、かろうじて段落を構成していることを確認する。③超級へとスパイラルアップさせるということである。

6. 終わりに

日本語 OPI 研究会は有志のテスターが技術を維持するためにテープを持ち寄り、勉強会として始まったものである。長年続けられている判定会は研究会の中核となる活動であり、トレーナーの判定も必ず付され、基準と自分の判定を合わせていく貴重な **renorming** の機会となっている。日本語 OPI 研究会所属のテスターが更新の際にトラック B として認め

られているのも判定会があるからに他ならない。

前述の OPI の日のテストを務めるためにインターネット上に開設された訓練サイトで **renorming** する機会を得た。まだまだ開設されたばかりで、インタビュー数も少ないが今後さらに充実し、さまざまな場所にいるテストが自由に **renorming** できる環境が整うことを願っている。

一トレーナーとして、テストのインタビュー技術と判定の技術向上に少しでも貢献し、さらに研鑽を積んでいきたい。

注

- (1) OPI 普及のために ACTFL の了解のもとに行われたもので、64 名の受験者があった。筆者もテストとして参加した。
- (2) R はテストの、E は被験者の発話である。なお、被験者の発話はテープの音声に忠実に書き起こしてあるが、テストの質問は内容を示しているのみである。
- (3) () 内の発話は相手のあいづちを表す。
- (4) 『ACTFL-OPI 試験官養成用マニュアル(1999 年改訂版)』 p.136
- (5) 『ACTFL-OPI 試験官養成用マニュアル(1999 年改訂版)』 p.136

参考文献

- 牧野成一監修・日本語 OPI 研究会翻訳プロジェクトチーム翻訳(1999) 『ACTFL-OPI 試験官養成用マニュアル(1999 年改訂版)』 アルク
- 牧野成一・鎌田修・山内博之・齊藤真理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子 (2001) 『ACTFL-OPI 入門』 アルク